

関連項目：指導体制プラン②、教育活動プラン⑤

合い言葉や六つの心得を通して主体的に生活をつくる

目的

社会の価値観が多様化し、本校児童は指示待ちの傾向が強くあります。そこで、本年度より「合い言葉」と「六つの心得」を設定することにしました。合い言葉や六つの心得は「自分作り」ということです。自分をよりよくするという事は「主体的に生活をつくる」にぴったりではないでしょうか。

また、「自分を見つめ生き方を考える」ということにもつながると思います。

内容

● 「合い言葉」「六つの心得」の作成

合い言葉や心得の中には、誰もが共有したい単純な価値観を盛り込みました。何か語呂を会わせて合い言葉をつくるというのではなく、仲間と共に生活をするために必要な考え方や、自分がとるべき行動目標を短い言葉にまとめました。合い言葉や心得の中には、他人を意識した中身があります。「自分も人も大切に」「あいさつ返事は当たり前」「人に迷惑かけること弱い者いじめはなりません」など、共同生活を行う上で絶対に必要なことを明文化し発信することで、教師だけでなく、児童や保護者、地域が価値観を共有することをねらいとしました。また、「まずは宿題、時間割」「よく聞き話し、賢く生きる」「みんなで掃除心も磨く」「一つ余分で、力を付ける」といった、自分自身の生活を主体的にするためにどのようなことを行うべきなのかを示すことで、目指すべき児童像がより鮮明に認識されることを期待しました。

● 全校集会や月目標での「合い言葉」と「六つの心得」の活用

全校朝会では、学校長がまず全校児童に向かって「合い言葉」と「六つの心得」を唱和することから始めることで、児童及び教職員に認知するきっかけを作りました。また、講話の中で取り扱う価値と「六つの心得」とをつなぐことで、日常生活における児童のあるべき姿や目指すべき姿をイメージしやすくしました。

また、本校では月目標を設定しており、その中身も「合い言葉」や「六つの心得」に沿う形に変更しました。新しいことを導入する際には、既存の内容との兼ね合いが必要であると考えました。児童が毎日振り返る月目標と関連させることで新しい取り組みが、まるで昔からあったかのように児童に受け入れられるようになりました。このことで、児童の具体的行動目標と教師の指導目標とが一体となりました。

● 明日への扉タイムの活用

本校では、『明日への扉タイム』を朝の活動時間に設け、自分がよりよく生きるために必要なことについて話を行っています。月1回生徒指導部会が提示した話題に基づいて教師が児童に語る時間になっています。ペースとして利用している話はありませんが、テーマが同じであれば自分の経験や伝え聞いた話を活用することもあります。道徳の時間とは異なり、教師が自分の体験や考えを語ることで教師と児童との距離が縮まることはもちろん、児童が新しい価値観を獲得するのに役立ちました。今年度は特に『六つの心得』との関連が図れるように意識して話を進めた話題もありました。

● 家庭や地域との連携

PTA 総会では今年度の取り組みの重点として紹介することはもちろん、学校・家庭・地域連携推進会議において話し合う議題に取り上げ、各方面からの協力を依頼しました。

成果

こうした取組をすることで、保護者へのアンケート『あいさつ』の項目で、肯定的評価が22年度12月には55%であったものが65%へと増加しました。また、地域の方からは『よくあいさつをしてくれるようになった。』というお褒めの言葉をいただきました。それに対して児童対象に7月と12月の行ったアンケート『あいさつ』の項目では、肯定的評価が7月は90%であったものが12月には87%と減少しました。児童が行った自己評価は下がりましたが、保護者や地域からの評価が上がっていることから、児童自身の課題意識が高まり目指す姿のレベルが向上したと考えられます。今後も、児童や教員、家庭、地域が一体となって価値観を共有できるように取り組みたいと思います。